

機構間連携・文理融合プロジェクト

言語における系統・変異・多様性 とその数理

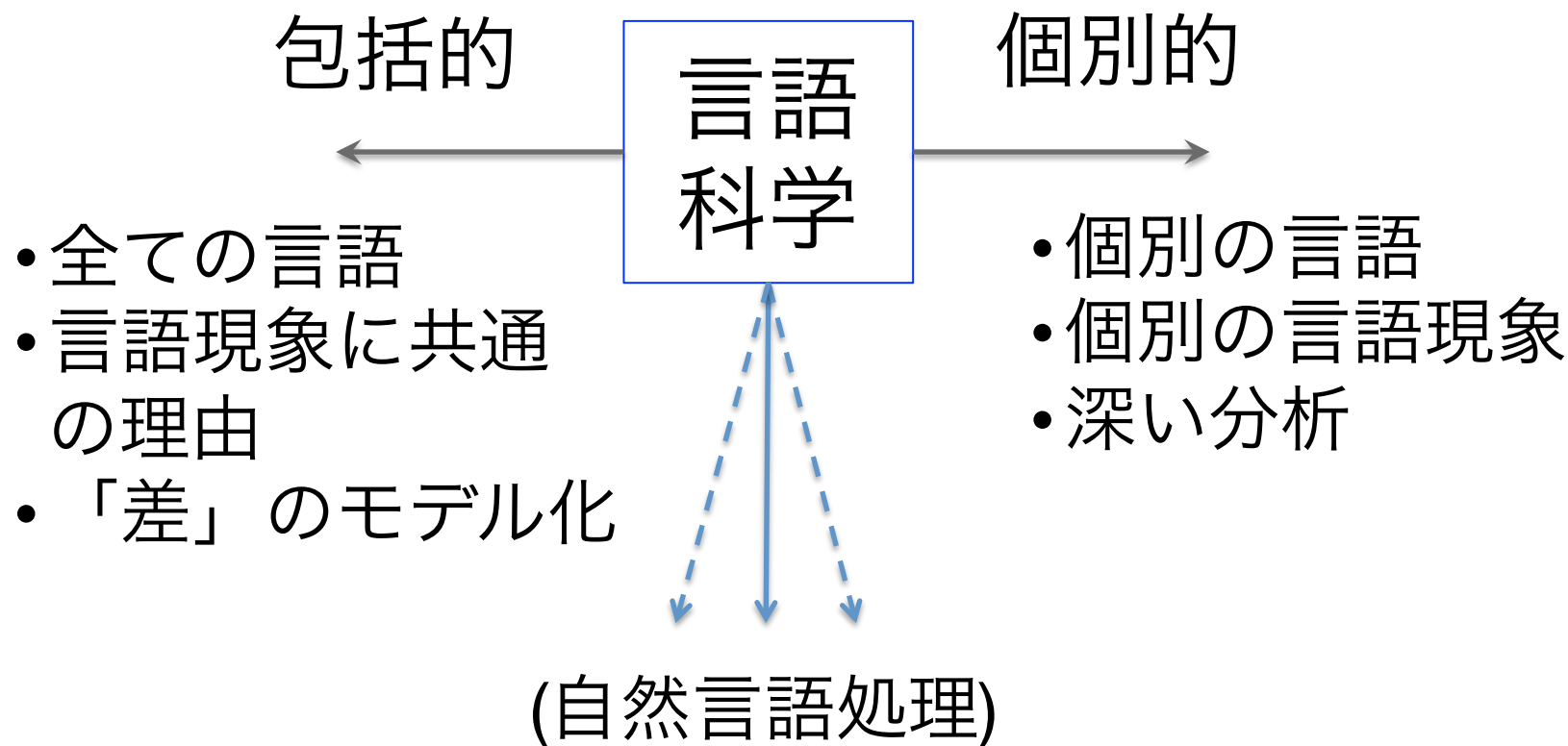
国立国語研究所・国立民族学博物館・
統計数理研究所 合同プロジェクト
講演会

2017-12-5(火)

プロジェクトの経緯

- 人間文化機構・情報システム研究機構・自然科学研究機構・高エネルギー加速器研究機構間の機構間連繋を高めて強みを出す、という試み
- 統数研<->国語研の間では、もともと共同研究の試み (松井・前田・持橋)
 - 機構のイベントで、持橋が菊澤さんとお話
- 明らかに共通する問題を抱えているので、上のプロジェクトに乗せて研究を進められないか？

言語科学の方向性



両側での状況

- 言語学側：
包括的なモデルを立てたいが、そのための数理的技術が何なのかがわからない
- 自然言語処理側：
より言語学に近い研究は注目されているが、まだ研究者の数が少なく、言語学との連携が十分に取れていない

環境の変化

- 本プロジェクトのような、興味の収束の傾向
- データ解析の一般化と解析基盤の容易化
 - 従来は、CやC++で記述する必要
 - R、Python、Cython による容易なプログラミング
 - データ解析の良質な教科書
- ただし、数理的な部分はまだ説明が少ない
→ 本セミナーの意義

「共同研究」について (私見)

- “数理は分からないので、解析はそちらで” というような丸投げでは、良い研究はできない
- 解析者自身が、交流によって能力を上げていくこと
- 共同研究の役割：
 - 「何をどう勉強したら良いか」をアドバイス
 - そもそも何を掘り下げるべきか、の情報の提供
 - 細かい専門的な点については、結果を見て技術的なアドバイス

本日のセミナー

- オーストロネシア諸言語の系統・変異・多様性と数理分析の可能性
 - 菊澤律子 (国立民族学博物館 / 総合研究大学院大学)
- 言語類型論の特徴からの潜在表現の獲得とその歴史的变化の分析への応用
 - 村脇有吾 (京都大学)

16:20～16:30：休憩

終了後、コーヒースタンド (聴講者の方もどうぞ)